

セルリの栽培 (七)

大 岩 金

六〇

セルリの害虫

次に注意せねばなりません事は主として昆蟲に依つて起る食害であります。然し此の作物は比較的近年のものでありますから害虫の被害も亦比較的少ない方ではあります。それでも附近の荒地或

は雑草の内で前年のものが越冬した様な時は、相當の被害のある事もあります。でありますから若し作物を害してゐる昆蟲を發見した様な場合には、専門家（農事試験場等）送つて鑑定を乞ひ驅除豫防の方法の通知を受ける様にする事が最も良い事と思ひますが大體作物を食害する昆蟲に對し

ては毒劑の撒布といふ方法に依るかさもなければ手で掃殺するより外ないものであります。しかし毒劑撒布は苗床の場合はまだしも本畑で用ひるといふ事は一考を要する事でありますから、先づ赤手に依る驅除が最も適當であると認めなければなりません。

次に主なる害虫二三に就て述べておきます。

いなご類

この類の被害は殊に附近に雑草地のある場合に顯著でありまして又、その雑草を刈り取つた後等は最も注意を要するものであります。この時は附近に家畜或は家禽が居らぬ事を確かまして殊に糖

蜜を少し混じてそれにバリスグリーンの水溶液を着色する位に入れてよく攪拌したものを畑の中に點々置きますといなごは大變是を好んで集食しますから驅除する事が出来ます。

いもむし類

此の中にも大型のものと小型のものとあります。が何れも相當大食でありますから多數の發生を見ますと、セルリの葉を全部食ひ盡して裸にしてしまふ様な事もあります。驅除の方法としましては先づ赤手捕獲法が第一であります。でもこの蟲は集團してゐる事は少なく方々にゐるものでありますから注意して見付けなければなりません。

かめむし類

此の昆蟲は扁平楕圓形で頭が少しく突出してゐる蟲であります。植物の養液を吸収するのであります。

色は周圍の状況によりまして異なります。豫防

驅除の方法としましては、附近の雜草を除去する事及び本害蟲は土中に潛入して越冬する習性がありますから、畑は充分耕耨する事に依りまして驅除する事が出来ます。藥劑としましては石油乳劑の撒布であります。この場合はセルリに撒布すると同時に周圍の雜草にも撒布する事が必要であります。

しゃくとりむし類

この蟲は幼蟲時代に食害するのでセルリが害されます。此れを驅除するのに、家禽に喙食させる方法があるといはれますがこれは充分注意しながら實行されます事を望みます。又雜草地等に發生した様な時はバリスグリーン半ポンドに消石灰二〇ポンド位の割合に混合したものを撒布すれば目的を達する事が出来ます。

ねずみ類

序でありますから其の他の害物に就て一二述べ

ます。

野鼠が農作物を被害するといふ事は一般に認めてゐる所でありまして、セルリをも害するのであります。それは畑におきまして食害すると同時に軟白してゐるもの又は貯藏中等にも相當の被害があるのであります。ここに食害と申しませんが原則としましての害は食つて終ふといふのでなく莖を齧るといふ事でありませぬ。今一つは畑に穴を掘つて根を害するといふ事でありませぬ。又貯藏庫を破り或は庫内に營巢する等の害もあります。是が驅除に就きましては種々ありませうが先づ改良された畠を利用する事が安全でありませう。又ペスト菌の利用も大變有効であります。即ち食菌のために斃死した鼠は他の鼠に食はれて是を斃死させるといふ具合であります。併し作物の貯藏中等には充分考慮せねばなりません。

家 禽

雞の雛の如きは原則としては食害せぬものであります。秋山野の雜草が枯死して終つた季節には時として食害する事がありますが春などは害蟲を啄食するのでむしろ有益なものであります。只家鴨及び鶩は絶対に畑に入れてはなりません。何となれば忽ち踏み荒して全く打目にしてしまふからであります。

軟 白 法

野生状態に其のまゝに於いたセルリは莖は木質纖維が充満して硬く色は綠色を呈しまして豐饒な香味を有するものであります。それは恰も裝飾用に添付するセルリの様なものであります。併しここに軟白します目的としましては先づ硬い莖を軟かくするといふ事が第一でありまして、色は少し綠色を呈してゐるといふ程度にしまして、上品で爽快な香味を有する様にするのであります。

セルリを軟白しますに二通あります。其の一つは日光を完全に遮ぎつて軟白させる方法（純粹軟白で小規模の場合）と他の一つはさほど完全に日光を遮る事なくして大規模に軟白するのとの二つであります。それですから是等の方法に依りまして軟白するセルリの種類も異なつて居りますし、軟白の方法の異なつて居りますのも無論であります。以下順を逐つて記述致します。

純粹軟白法

是は要するに日光を完全に遮ぎつて結局穴蒼等の如き暗所で生育させますので軟白中に莖中の葉綠素を失はしめる作用をさせるのであります。

つまり適當の温度と湿度と丈に依りまして莖中の葉綠素が變化して失はれ豊饒な香味を生じて來る様にするのであります。ゴールデン、セルプブランチングとかホワイトプラム等がその目的で撰ばれます。要するに早く收穫しやうとする場合

は本法が望ましいのであります。

板圍軟白法

以下に述べます軟白法は所謂純粹軟白法でない軟白方法でありまして相當大量を軟白するにも行はれます方法なのであります。本法は軟白法として一般的に方法であります。即ち一インチ幅の板を畦の兩側へ沿つて竝べるのが最も普通のやり方であります。が地方の事狀に依りましては板を利用する事は甚だ不利な場合もあります。この場合はセルリの株へ土を堤狀に寄せて軟白させる方法もありますから是は項を改めて述べる事としまして本項では今少し本方法に就て記します。

板は一インチの厚さで一二インチの幅のもので長さは取扱ひに便なるものであります。樹種は松柏科の新しいものですとセルリの香氣を害するといひますから敢へて使用するにも及ばぬ事かと思ひます。右の様な板を撰びましたらその板の内面

即ちセルリに接する面は滑に削つたものを畦に沿つて兩側へ垂直に立てるのであります。而してその板と板とは隙間の出来ない様にカスガイを用ひて止めるとか杭を打つて止めるとか又は板に刻をつけて簀込む等の方法をとります。それから内のセルリはなるべく密に並ぶ様にしてその隙間へは細土を篩ひ込むのであります。

板圍軟白法の期間

早生種でありますと一〇——二〇日間位で完全に軟白し得られます播種後凡そ一五〇——一六〇日頃から行ふのであります。

併しセルリが尙生育してゐる様な場合には板圍はそのまゝにしておかねばなりません。があまり長い間放置しますとセルリの香味と重量を減じます。即ちセルリの莖は随質になつてしまひます。

次に板の保存方法としましては使用します畑の附近で乾燥してゐる所に積み重ね間々に間隙を造つ

て上には雨覆をしてあげばよろしいのであります。

土圍軟白法

此の方法は軟白方法中最も都合の好い方法であります。即ち大規模の栽培をします時でも第一前者の方法ですと板の購入に要する費用は莫大なものであります。が本法では其れが全く省かれます。そうかと思ひますと家庭で小規模の栽培をする様な時でも本法の方が好い結果が得られます。殊に寒地で少し位降霜があつてからであります。と收穫が出来ない様な地方などでは最も有利な方法であります。又セルリの葉までも土で圍つておきます。すなわち他の植物が凍つてしまふ様になる迄利用する事が出来ます。が香味の點から申しますと土圍は長くない方が好い様であります。

次に土圍にはその目的で特に出来てゐる農具があります。が家庭用としましては鉄で土寄すれば

目的を達する事が出来ます。

土寄の方法

畑土が硬い時は耕してから其の土を寄せねばなりません。土を寄せる時は始の一方を行ふ場合セルリを倒さぬ様注意せねばなりません。そうして畦の両方に土を寄せましたならば叩いて堅めその内へ細土を入れて軟白の目的を運する譯なのであります。又先に板で畦の兩側を圍つて置いて土を篩ひ込んで後板を取り去る方法もあります。是の方が幾分勞力が省ける様であります。

土管に依る軟白法

直徑三——四インチ位の素焼の土管と三角形のブリキ板とを用意すれば好しいのであります。

先三角形のブリキ板でセルリの一株を完全に包んでおきましてその上から用意した土管を箆めまして先のブリキ板を抜き取ればそれで好しいのであります。

此の方法は最も衛生的であつて家庭等で行ふに都合の好い方法だらうと思ひます。併し高温度の時でも通風を計る事が出来ますからセルリの腐敗の心配もありません。結局土管の下部に小孔を穿けておけば好い譯であります。

其の他の軟白法

丁度降霜頃に東京の郊外に行きますと畑に頬冠りをした白菜を御覧になる事がありません。あの様に紙でセルリを包む事に依りまして軟白と或る意味の貯藏の目的とを達する事が出来ます。又畑にあるまゝセルリを綱を以つて互ひに結び合せて隙間を無くする様にしておきまして軟白する事が出来ます。又藁とか落葉を以つて軟白する方法もあります。是等の方法に依りますとセルリが發病し腐敗する様な心配もありますし、其れ等の物質の分解に依りましてセルリの香味を害する様な事もあるといはれます。それから冬期用のものとしておきまして軟白する必要なく畑では無病強健のものを作つておいて貯藏中に軟白されるのであります。